

| <b>第3回シンポジウム</b><br>- 東京都市圏のこれからの交通 - |  |
|---------------------------------------|--|
| テーマ                                   | 『持続可能な交通に向けて』  |
| 開催日                                   | 平成 12 年 2 月 23 日(水)  |
| 参加者数                                  | 約 300 人  |
| 内容                                    | 基調講演「持続可能な交通に向けて」<br>太田 勝敏（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授）<br>パネルディスカッション<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• コーディネーター：<br/>太田 勝敏<br/>（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授）</li> <li>• パネリスト：<br/>兵藤 哲朗<br/>（東京商船大学 商船学部 流通情報工学課程 助教授）<br/>太田 雅文（東京急行電鉄株式会社 管理部 企画課）<br/>吉田 洋子<br/>（都市計画・まちづくりファシリテーター・宅地開発研究所企画開発室長）<br/>堀田 憲司（神奈川新聞社 論説委員）</li> </ul> <div style="text-align: right;">（敬称略）</div> |

## 第3回シンポジウム：主な意見

平成12年2月23日開催

### ■ 基調講演：「持続可能な交通に向けて」

東京大学大学院工学系研究課教授 太田 勝敏氏

#### ● 「持続可能性」の中では、自動車をいかに適切に使っていくかがポイント

私の基調講演としては、「持続可能な都市交通」ということをテーマにお話させていただきたいと思います。まず、「持続可能性」ということですが、これは元々は南北問題での持続可能な開発という文脈の中で出てきた概念でして、現在私たちが享受している自然・環境を次世代に残していきたいという考え方です。これを交通面から捉えますと、3つのポイントがあります。一つは、環境・生態系を損なわないような交通システムの構築です。二つめは、都市交通政策として非常に重要なポイントですが、交通システムが効率的に運営され、安定的・持続的にサービスが市民に提供されるという、経済・財政面からの持続可能性です。三つめは、高齢者や身障者などの移動制約者に公平なモビリティを確保するという社会的な持続可能性です。これらの問題を考えると、自動車以外の選択肢を残しながらモビリティを高めていくか、また、自動車をいかにうまく飼いつけて使っていくかが、これからの交通政策の基本にあるべきだと思います。

#### ● 従来型の需要追随型アプローチから総合的なパッケージアプローチへ

都市活動が活発化し、交通の需要が増大しますと、従来は、増加した需要に対して必要な交通施設を造るという需要追随型のアプローチをしてまいりました。しかしこれは2つの点で難しくなっています。一つは、お金や沿道の問題等により、施設拡大の合意形成が難しくなっています。二つめは、環境制約をおかさずに拡大できるかという問題です。そこで出てきた新しいアプローチが総合的なパッケージアプローチです。これは次の3つがセットとなっています。一つは環状道路等の骨格的な施設等を選択的に整備することです。二つめは需要サイドについても環境制約の中に抑えつつ、モビリティを増やしていこうとするものです。三つめは環境制約に関わる社会的費用の内部化と費用負担方法等の問題、すなわち、制度フレームワーク(枠組み)も変えていこうということです。

#### ● TDM施策を進めるには

TDM(交通需要マネジメント)のねらいは、移動量全体を減らす、自動車交通量を削減する、時間的・場所に交通量を平準化するという3つのねらいがあります。その3つのねらいに向けて、様々な施策がありますが、重要なのは全体をうまくまとめあげることです。TDMは確かに需要サイドからアプローチしますが、それをサポートする骨格道路や魅力的な公共交通の整備等の供給サイドの施策と一体となっていることが必要です。さらに、需要を発生している個人・企業、関連交通事業者、行政等が実際の行動を通して連携していくということが大変重要になります。TDMにより、私たち個々自身が車の使い方・ライフスタイルを見直し、持続性を高める方向に変えていくことと同時に、みんなで協働して、安心して住みつけられるまちづくりを進めていくことが重要だと思います。

## ■ パネルディスカッション：「これからの暮らしと交通」

コーディネーター：太田 勝敏 氏（東京大学大学院教授）

パネリスト：兵藤 哲朗 氏（東京商船大学助教授）

太田 雅文 氏（東京急行電鉄株式会社交通事業部管理部企画課長）

吉田 洋子 氏（都市計画・まちづくりファシリネーター・  
宅地開発研究所技術本部技術営業部長）

堀田 憲司 氏（神奈川新聞社論説委員）

### ● 確実に訪れる高齢化へ対応した交通サービスを

兵藤氏：

これからの暮らしと交通を考える上での問題提起として、確実に迎える高齢化の中で、今までの高齢者とは違う交通行動を前提とした交通体系を考える必要があると考えます。

吉田氏：

世代によって、随分、自動車利用に対する意識に差があるように感じられますし、そういうところも踏まえておく必要があるのではないのでしょうか。

兵藤氏：

公共交通の面から考えますと、高齢化に対応しつつ、駅までなどの短距離の移動をサポートする改善が必要だと考えられますね。

吉田氏：

高齢者だけでなく、身障者の方々も含めて、自立した移動を支援するようなきめ細かな公共交通サービスを充実する必要があると思います。

### ● 多様化する暮らしに応じた新しい公共交通サービスへの取り組みを

太田雅文氏：

鉄道サービス面からは東京都市圏の生活の質はまだ低いと考えられます。これからは、混雑緩和だけではなく、所要時間・乗り換えなど多様化する公共交通サービスへのニーズに対応し、選択性を高めることが必要だと考えています。

吉田氏：

市民が公共交通を使う気になるような料金・サービス等の工夫も必要ではないのでしょうか。

兵藤氏：

今まで以上に快適性の追求というニーズが交通サービスの中に求められるようになるのではないのでしょうか。その場合に、事業者・利用者からだけではなく、快適性について、企業が商品として開発するような仕組みが必要だと考えます。

太田雅文氏：

例えば、地域との共生という視点からも、マルチモーダルな交通カードみたいなものができないか考えていくことも重要だと思います。

- **既存のネットワークを活用し効率的な整備の工夫を**

太田雅文氏：最近出されました運政審の答申等をみていますと、鉄道の整備にあたって、既存の路線を活用してネットワークの効率性を高めていく方向にあるのかなと認識しています。

堀田氏：道路についても、現状では整備が進んでいませんが、渋滞の問題、生活環境の問題、排気ガス等の環境の問題の改善に向けて、既存の道路間をネットワーク化するような骨格的な環状道路整備が必要です。

会場から：環状道路等の新たな道路整備により、自動車交通を誘発してしまうことは考えられないのでしょうか。

太田勝敏氏：

都市の中に大量の通過交通が流れ込んで、渋滞や環境の問題をひきおこしていますから、その解決に資する環状道路整備は重要です。また、防災などの都市の公共空間を形成するという意味でも重要だと考えます。

- **これからの交通まちづくりの展開に向けて市民・行政・事業者の連携を**

兵藤氏：

今後、情報化の進展やNPO組織の台頭の中で、市民と行政との関わり方も変化していくと考えられます。

吉田氏：

交通や地域の問題について、市民と行政とが一緒に考えることで、太田先生の基調講演に出てきた「持続可能な社会」に変えていけるのではないのでしょうか。

太田雅文氏：

鉄道事業者としてのサービス改善の第一は、お客様のニーズは何なのかということ把握し、企業戦略を立てるといことです。また、今後、鉄道が民間事業なのか、都市の基本的な施設なのかという議論や社会的な費用対効果を踏まえた投資の優先順位等の議論も重要です。

堀田氏：

鉄道だけでなく、これまで事業者の参入・撤退を規制していた需給調整を撤廃するという規制緩和の影響が非常に大きいバスについても、市民や地域のニーズを受けとめる必要があります。短距離移動のサービスや乗り継ぎの改善などを進めるとともに、地域ごとに、まちづくりとバスサービスということを協議できるような場も必要だと思います。

会場から：

住民参加、高齢化、規制緩和等の流れの中で、市民・交通事業者・行政との関わり方も変わってくると感じています。

兵藤氏：公的な計画をサポートするなどの中で、NPOがうまく市民・行政・事業者間のメカニズムの組み替えを行えるのではないかと期待しています。

太田勝敏氏：

自転車についても、公共交通への持ち込みやレンタサイクルシステム等、都市交通の中での総合的な位置づけを検討することが重要だと考えます。

## ■ その他の会場とのディスカッション

### ● 道路整備とTDMの関係

会場から：

道路整備とTDMとの関係は、道路等が整備されているから導入できるという面と逆に道路整備が十分でないがゆえに導入されるという面の2つの関係があるのではないのでしょうか。

太田勝敏氏：

TDMは施設がある段階・ない段階で手法は異なりますが、それぞれの整備レベルで必要だと考えています。重要なことは、地域の目標像達成にふさわしい手段としてのTDMを選択していくことだと思います。

### ● 環境問題の視点も重要

会場から：

川崎、尼崎の道路公害判決等をもても、行政の枠をこえて、沿道環境・住民等にも充分配慮した施策を展開することが重要ではないのでしょうか。

太田勝敏氏：

重要な課題だと思います。今回の中では十分に議論できませんでしたが、計画の段階から都市計画との関連を含めて総合的に検討していくことが必要だと考えています。

### ● 自転車の役割の変化は

会場から：

自動車との兼ね合い、歩行者との兼ね合い、駅前の放置自転車の問題等、これからの交通システムからみた自転車の役割とはどのようなもののでしょうか。

太田雅文氏：

放置自転車の問題は鉄道事業者と都市政策との連携で解決すべき問題だと考えます。

太田勝敏氏：

自転車についても、公共交通への持ち込みやレンタサイクルシステム等、都市交通の中での総合的な位置づけを検討することが重要だと考えます。